

## 有害性総合評価表

物質名：ジアゾメタン

有害性の種類	評価結果
ア 急性毒性	<p><u>致死性</u> 報告なし</p> <p><u>健康影響</u> ・ネコに対して 300 mg/m<sup>3</sup> (2%エーテル溶液として約 175 ml/m<sup>3</sup>)に 10 分間吸入曝露したところ、3 日以内に死亡した。肺の出血、気腫、水腫が認められた。</p>
イ 刺激性/腐食性	<p>皮膚刺激性/腐食性：報告なし</p> <p>眼に対する重篤な損傷性/刺激性：報告なし</p>
ウ 感作性	<p>皮膚感作性：報告なし</p> <p>呼吸器感作性：判断できない 研究所でこぼれた本物質を拭いた男性医師が、直後に脱力感、重度の頭痛、中等度の胸部の痛みがあったが、約 48 時間で回復した。その後、微量の本物質にばく露したところ、咳、ぜん鳴、倦怠感を生じたとの報告があるが 1 例だけである。</p>
エ 反復投与毒性(生殖・発生毒性/遺伝毒性/発がん性は除く)	報告なし
オ 生殖・発生毒性	報告なし
カ 遺伝毒性(変異原性を含む)	遺伝毒性：報告なし
キ 発がん性	<p>発がん性の有無：ヒトに対して恐らく発がん性がある。</p> <p>根拠：ACGIH がマウスの試験での肺の腺腫の発生、ラットの試験で呼吸器の腺腫及び扁平上皮がんが発生したことから限定的ではあるが、矛盾のない証拠であるとして A2 に評価している。IARC は 1987 年に Group3 と評価しているが、ACGIH が 1995 年に A2 に評価しているため後者を採用した。</p>
ク 許容濃度の設定	<p>ACGIH TWA : 0.2 ppm</p> <p>根拠：ジアゾメタンの毒性はホスゲンと同等とみられ、0.2 ppm にて下部気道への刺激性およびそれに関連する毒性作用を予防する上で推奨される。</p> <p>日本産業衛生学会等 設定なし</p>